

安全データシート

【1. 化学物質等及び会社情報】

化学品の名称:	ステアリン酸ナトリウム
製品名:	ダイワックス NA
会社名:	大日化学工業株式会社
住所:	東大阪市中石切町7丁目3番4号
担当部門:	技術部
電話番号:	072-985-1851
緊急連絡先:	072-985-1851
FAX番号:	072-987-0170
推奨用途:	樹脂用添加剤

【2. 危険有害性の要約】

化学品のGHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体:	分類できない
自然発火性固体:	分類できない
自己発熱性化学品:	分類できない
水反応可燃性固体:	区分に該当しない
金属腐食性物質:	分類できない その他に関しては区分に該当しない

人健康有害性

急性毒性(経口):	区分に該当しない
急性毒性(経皮):	分類できない
急性毒性(吸入:気体):	区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気):	分類できない
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト):	分類できない
皮膚腐食性/皮膚刺激性:	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:	区分に該当しない
呼吸器感受性:	分類できない
皮膚感受性:	分類できない
生殖細胞変異原性:	区分に該当しない
発がん性:	区分に該当しない
生殖毒性:	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	分類できない
誤えん有害性:	分類できない

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性):	区分2
水生環境有害性 長期(慢性):	区分3
オゾン層への有害性:	分類できない

他の危険有害性

粉じん爆発危険性:	粉じん爆発の危険性有
-----------	------------

ラベル要素

絵表示又はシンボル:	なし
注意喚起語:	なし
危険有害性情報:	強い眼刺激、喉に刺激性 水生生物に毒性 長期継続的影響によって水生生物に毒性

安全データシート

注意書き:

<安全対策>

使用前にSDSを参照すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入しないこと。
取り扱った後は、手や眼を洗うこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
粉じんの発生を避けること。微粉の場合は粉じん爆発の危険性も考えられるので多量の取り扱いには注意すること。
環境への放出を避けること。

<応急措置>

眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合: 医者の診察/手当を受けること。
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。

<保管>

容器を密閉して換気の良い場所で施錠して保管すること。

<廃棄>

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

【3. 組成、成分情報】

化学物質・混合物の区分:

化学物質

化学名又は一般名:

ステアリン酸ナトリウム(脂肪酸C16-C18ナトリウム塩)

化学式:

RCOONa

CAS番号:

822-16-2(68424-38-4)

官報公示整理番号(化審法):

2-611

官報公示整理番号(安衛法):

既存

PRTR法対象物質:

該当しない

安衛法対象物質:

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物
(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(ステアリン酸ナトリウム)

毒劇法対象物質:

該当しない

危険有害成分:

特になし

【4. 応急措置】

吸入した場合:

空気の新鮮な場所に移し、安静保安に努める。

呼吸停止の場合は、人工呼吸を行う。

呼吸困難の場合は、酸素吸入を行う。

気分が悪い時は医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合:

石鹼水で洗い、その後清水で十分に洗い流す。

皮膚を流水/シャワーで洗うこと。

気分が悪い時は医師の診断を受ける。

眼に入った場合:

直ちに清水で十分に洗い流す。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合、水で数分間注意深く洗うこと。

気分が悪い時は医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合

水で口の中を洗浄する。

気分が悪い時は、医師の診断を受ける。

意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

【5. 火災時の措置】

適切な消火剤:

泡消火薬剤、粉末消火薬剤、水噴霧

使ってはならない消火剤:

棒状の水

安全データシート

火災時の特有の危険有害性: 消火を行う者の保護:	火災時に刺激性、もしくは有毒なフュームやガスを生じる。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
【6. 漏出時の措置】 人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時処置:	作業者は適切な保護具(8. 暴露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、皮膚への接触や吸入を避ける。 多量の場合、人を安全に避難させる。 必要に応じた換気を行う。
環境に対する注意事項: 封じ込め及び浄化の方法及 び機材: 二次災害の防止策:	河川や下水に放出しない。 粉じんの飛散に注意しながら粉じん爆発安全対策仕様の掃除機、箒等を使用し、粉塵が舞わないよう空容器に回収する。 付近の着火源となる物を速やかに取り除く。
【7. 取扱い及び保管上の注意】 取り扱い 技術的対策: 安全取扱い注意事項: 接触回避: 保管 保管条件: 容器包装材料:	【8. 暴露防止及び保護措置】 に記載の設備対策を行い、適切な保護具を着用する。局所排気、全体換気を行う。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 接触、吸入又は飲み込まない。 空気中の濃度を暴露限界以下に保つために排気用の換気を行う。 指定された場所以外では、飲食、喫煙を行ってはならない。 取扱い後はよく手を洗う。 「10. 安定性及び反応性」を参照 容器は密封し、高温物を避け、換気の良い所に保管する。 スパーク、火花、火気、熱源より遠ざける。 一定の場所を定め、冷乾所に保管する。 帯電防止を施した容器を使用する。 密閉式の破損しない容器に入れる。
【8. ばく露防止及び保護措置】 許容濃度等: 設備対策: 保護具 呼吸用保護具: 手の保護具: 眼の保護具: 顔面の保護具: 皮膚及び身体の保護具: 注意事項:	ACGIH勧告値(2016年) ステアリン酸ナトリウム TWA 10mg/m ³ (I)-3mg/m ³ (R), STEL- 防塵設備を勧める。十分な換気を行う。 眼洗浄施設及び安全シャワーを設置する。 防塵マスク等の適切な呼吸器保護具を着用すること。 ゴム保護手袋等の適切な手袋を着用すること。 保護眼鏡等の適切な眼の保護具を着用すること。 顔面保護マスク等の適切な顔面の保護具を着用すること。 長袖作業着等の適切な保護衣を着用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。
【9. 物理的及び化学的性質】 物理状態: 色: 臭い: 融点/凝固点: 沸点又は初留点及び沸騰範囲: 可燃性: 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界: 引火点: 自然発火点: 分解温度:	粉末 白黄色 データなし 210~230°C データなし データなし データなし 可燃性であるが引火点なし データなし データなし

安全データシート

pH:	データなし
動粘性率:	データなし
溶解度:	水に可溶。ベンゼン、トルエンに僅かに溶解。
n-オクタノール/水分配係数(log値):	データなし
蒸気圧:	データなし
密度及び/又は相対密度:	データなし
相対ガス密度:	データなし
粒子特性:	データなし

【10. 安定性及び反応性】

反応性:	特記すべきことなし。
化学的安定性:	通常条件下では安定である。
危険有害反応可能性:	データなし
避けるべき条件:	高温に加熱しない。粉末または顆粒状で空気と混合すると粉塵爆発の危険性がある。
混触危険物質:	特になし
危険有害な分解生成物:	燃焼等により、CO _x 、NO _x 等の有害ガスを発生する恐れがある。

【11. 有害性情報】

急性毒性:	経口: (1)より、区分に該当しない。 (1)ラットのLD50:> 5,000 mg/kg (CIR Expert Panel(化粧品成分審査委員会専門家パネル) (2019))
	経皮: データがなく分類できない
	吸入(気体): 区分に該当しない
	吸入(蒸気): データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性/刺激性:	吸入(粉塵、ミスト): データ不足のため分類できない。 (1)より、区分に該当しない。 (1)ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本物質は非刺激物であったとの報告がある(ACGIH (7th, 2017)、CIR Expert Panel (化粧品成分審査委員会専門家パネル) (2019))
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性:	(1)、(2)より、区分に該当しない。 (1)ステアリン酸(CASRN: 57-11-4)について、ウサギを用いた眼刺激性試験において、適用後24、48時間後に軽度の結膜発赤が2/6例にみられたが、影響は72時間以内に全て回復したとの報告がある(REACH登録情報 (Accessed Sep. 2021))。(2)ウサギを用いた眼刺激性試験において、最小限から軽度な刺激性を示したとの報告がある(CIR Expert Panel (化粧品成分審査委員会専門家パネル) (2019))。
呼吸器感作性又は皮膚感作性:	データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性:	本物質のデータはないが、(1)~(3)よりステアリン酸マグネシウムおよびステアリン酸の各種試験陰性知見に基づき、区分に該当しないと判断した。 (1)ステアリン酸マグネシウム(CAS 557-04-0)はin vitroの細菌復帰突然変異試験及びチャイニーズハムスター肺由来細胞(CHL/IU)を用いた染色体異常試験で陰性、マウスの骨髄細胞を用いたin vivo小核試験で陰性であったことから、生体にとって特段問題となる遺伝毒性はないと判断された(食安委 添加物評価書 (2016))。 (2)ステアリン酸マグネシウムを経口摂取した場合、一部は胃内でマグネシウムイオンとステアリン酸に解離すると考えられている(食安委 添加物評価書 (2016))。 (3)ステアリン酸(CAS 57-11-4)については、in vitroの細菌復帰突然変異試験で陰性の報告がある(CIR Expert Panel (2019)、食安委 添加物評価書 (2008))

安全データシート

発がん性:	本物質のデータはないが、(1)のステアリン酸ナトリウムを含む既存分類、(2)~(4)よりステアリン酸マグネシウムおよびステアリン酸の各種試験での陰性知見に基づき、区分に該当しないと判断した。 (1)国内外の評価機関による既存分類結果として、ACGIHでステアリン酸塩についてA4に分類されている(ACGIH (7th, 2017))。(2)ステアリン酸塩の発がん性を評価するために実施された動物試験からは、陽性/陰性を判断できない曖昧な結果、又は陰性の結果が得られた(ACGIH (7th, 2017))。(3)ラットを用いた209日間混餌投与試験で、ステアリン酸の0.3%(3,000 ppm)含有群に腫瘍発生増加はみられなかった(ACGIH (7th, 2017))。(4)マウスにステアリン酸を最大50 mg/kg/dayで混餌投与(投与期間不明)した試験で発がん性はみられなかった(CIR Expert Panel (2019))
生殖毒性:	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	データ不足のため分類できない。
誤えん有害性:	データ不足のため分類できない。
他の危険有害性:	本製品は粉体であることから、粉塵爆発には十分に注意すること。

【12. 環境影響情報】

水生環境有害性(急性):	甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50=19mg/L(環境庁生態影響試験,2000)から、本物質の水溶解度(3.322mg/L(PHYSROP Database,2009))において当該毒性が発現した可能性が否定できないため、区分2とした。
水生環境有害性(長期間):	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(BODによる分解度:83%(既存点検,1994))、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC=0.48mg/L(環境庁生態影響試験,2000)であることから、区分3となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(BODによる分解度:83%(既存点検,1994))、魚類(メダカ)の96時間LC50>100mg/L(環境庁生態影響試験,2000)より、区分に該当しない。以上の結果を比較し、区分3とした。
オゾン層への有害性:	分類できない。

【13. 廃棄上の注意】

残余廃棄物:	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従う。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、処理委託する。
汚染容器及び包装:	容器は関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

【14. 輸送上の注意】

国連番号:	該当しない
品名(国連運送名):	該当しない
国連分類:	該当しない
容器等級:	該当しない
海洋汚染物質:	該当しない
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策:	【6. 漏出時の措置】を参照 【7. 取扱い及び保管上の注意】の章を参照 容器の破損、漏れがないことを確かめる。 荷崩れ防止を確実にを行う。 該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。 火気注意
国内法規制	陸上輸送: 消防法、安全衛生法に従う。 海上輸送: 船舶安全法に定められている輸送方法に従う。 航空輸送: 航空法に定められている輸送方法に従う。

安全データシート

【15. 適用法令】

国内法

化審法:	2-611 優先評価化学物質(法第2条第5項)【172飽和脂肪酸(C=8~18、直鎖型)のナトリウム塩又は不飽和脂肪酸(C=16~18、直鎖型)のナトリウム塩】
消防法:	該当しない
労働安全衛生法:	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号~第2号別表第9)【第325号 ステアリン酸ナトリウム】
大気汚染防止法:	該当しない
水質汚濁防止法:	該当しない
下水道法:	該当しない
水道法:	水質基準(法第4条第2項、平成15年5月30日省令第101号)【36 ナトリウム及びその化合物】
毒物及び劇物取締法:	該当しない
船舶安全法:	該当しない
航空法:	該当しない
火薬類取締法:	該当しない
高圧ガス保安法:	該当しない
化学物質管理促進法:	該当しない
海洋汚染防止法:	該当しない

【16. その他の情報】

参考文献

- 1) NITE 化学物質総合検索システム(CHRIP)
- 2) ezCRIC+ (JCDB, 2023)
- 3) LOLI (ChemADVISOR, 2019)
- 4) 既存化学物質安全性点検データ
- 5) 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ
- 6) JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)(2019)
- 7) JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法
- 8) 化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂6版(化学日報社)
- 9) 国際物質安全性カード(ICSC CARD)

全ての化学品は、同一物質においても使用環境や使用者の体質・体調等により危険性や健康面への影響が一律ではないため、用法・用途に適応した安全対策を実施のうえお取扱ください。記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、含有量、物理的/化学的性質、危険有害性、注意事項等の記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。新しい知見の発表や従来の説の訂正等により内容に変更が生じますことをご承知ください。また、本SDSは国内法に基づき作成されたものであり、国外法に関して対応するものではありません。